

## 平成27年度 第2回 岡山県社会教育委員の会議 要旨

平成28年3月16日

### (1) 「地域の中で輝く中高生の出番づくり～地域への愛着心・自己肯定感の向上をめざして～」提言 (案) について

- ・公民館の数、中高生の参画の実態はどれくらいあるのか？
- 中高生の出番づくりをしている公民館は36館、県全体の13%となっている。この調査研究で中高生が参加してる事例が約200事例、そのうち参画している29事例があり、今回の8事例に絞り込んでいる。
- ・公民館で大人は子どもを見守ることが難しい。地域がどれだけ役割を意識できるかである。地域で活動する場合、統括的なコーディネーターの役割を持った人が必要である。
- ・小学生からの参加には保護者の理解が必要である。公民館での参加は親へのアプローチも大切である。

### (2) 第2次岡山県教育振興基本計画について

#### 【生涯学習環境の整備と文化・スポーツの振興】

- ・中高生の時に多様な世代にふれていくことが大切である。「だっぴ」の取組は効果があるので県下に広げたい。本音が出やすく、社会人もだっぴで自分を見つめ直している。
- ・若者が集まって話す機会が必要である。話すことで地域の良さを再発見し、課題を解決しようとしている。人をつなぐのが公民館である。
- ・総合的な学習の時間等、テーマ学習の中で地域との連携が広がってくる。
- ・地域でのイベントには参加するが、今の地域をどう維持していくかが課題である。
- ・人口減少社会で人材の取り合いになる。地域が生き残っていくためにはその部分が課題になってくる。全体を束ねる組織が必要である。部局をこえたまとめたものがないと全体像が見えてこない。

#### 【地域・家庭教教育力の向上】

- ・美咲町では、青少年育成団体、社会福祉協議会、子ども課などを入れて、民間版の子育て支援センターのようなものを3月から試行している。社会福祉協議会で子どもへの取組も考えている。教育とは違う視点で、福祉の分野から家庭を見ることも大切である。
- ・出前図書館のような場所で包括的な支援により、少しずつ保護者に情報を入れていく。
- ・公的な予算をあまり使わずとも、民間主体でやれることもある。
- ・中学生は自分の言葉で返すことが難しくなっていると感じるので、就学前から子どもも親も力をつけることが必要と感じる。
- ・子育て支援コーディネーターも学校や公民館、地域と親子を結びつける役割があるので、存在を知ってもらう必要がある。
- ・統括コーディネーターの養成にも期待している。
- ・プレーパークに子育て世代が集まっている。地域づくりにも結びついている。
- ・PTAでも保護者のレベルアップを進めている。早寝早起き朝ごはんの取組では、学校任せでなく、保護者に情報を流している。
- ・研修会など、来て欲しい保護者は様々な事情で来ることが難しい。就学前に基礎を作ることは大切であるが、就学後も支援は必要である。意識の低い保護者への働きかけが課題となっている。
- ・親育ち応援学習プログラムを低年齢から進めていくことで、その良さを知り、学びに抵抗のない親が増えてくる。多くの人に参加すると、参加しないといけない気持ちになってくる。「自己肯定感」のプログラムを推進していくことが必要である。